

星空ガイド 12月16日～1月15日

よいの星空

12月16日22時頃
1月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

12月16日 4時頃
1月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

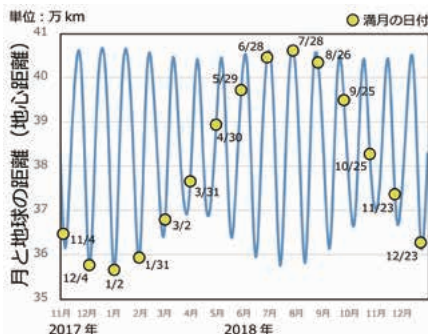
月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
12	16	土	6:58	16:48	4:47	15:37	27.6
	21	木	7:01	16:51	8:57	19:26	2.9
	26	火	7:03	16:53	11:59	--:--	7.9
1	1	月	7:05	16:57	16:16	5:38	13.9
	6	土	7:05	17:01	21:49	10:10	18.9
	11	木	7:05	17:06	1:46	13:02	23.9
	15	月	7:04	17:10	5:21	15:42	27.9

2018年で一番大きく見える満月

月と地球の間の距離はだいたい38万kmです。ただし正確には月の軌道は楕円のため、±2万kmほど地球に近ざったり遠ざかったりします。図の青線は、2017年末から来年1年間の月と地球の距離の変化をグラフにしたものです。

さて1月2日は満月ですが、これは2018年の満月では一番地球に近い場所での満月です。つまり、一番大きく見える満月ということになります。

この満月のことを、俗にスーパームーンと呼ぶことがあるようです。この言葉は天文学の用語ではなく、定義もはっきりしない言葉ですが、今回の満月が2018年で一番大きく見えるという意味では、ちょっと特別と言えるかもしれません。ただ計算上はそうでも、体感としてはなかなか大きいとは感じられないでしょう。



木星と火星が非常に接近

1月7日の明け方、木星と火星という2つの明るい惑星が、角度にして0.2度と非常に接近します。ちなみに、月の見かけの大きさは0.5度ぐらいです。0.2度といえば、二重星で有名な北斗七星のひしゃくの柄の端から2番目の星ミザールとアルコルの距離と同じくらいです。かつてアラビアでは、この2つの星が分かれて見えるかどうかで視力を試していたといいます。今回、木星と火星は、視力検査ができるぐらい近づくことになります。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
12	18	月	●新月(16時)
	19	火	月が2017年で最遠(406,603km)
	22	金	冬至(太陽黄経270°)/土星が合/こぐま座流星群が極大のころ
	23	土	天皇誕生日
	26	火	●上弦(18時)
1	1	月	元日
	2	火	○満月(11時) 月が2018年で最近(356,565km) 2018年で一番大きく見える満月 水星が西方最大離角(明け方の空に見やすい)

月	日	曜	主な天文現象など
1	3	水	地球が近日点通過(1.4709億km)
	4	木	しぶんぎ座流星群が極大(4時)
	5	金	小寒(太陽黄経285°)
	7	日	木星と火星が明け方に非常に接近
	8	月	成人の日
	9	火	●下弦(7時)/金星が外合
	11	木	月と木星・火星が明け方にならぶ
	13	土	水星と土星が接近(明け方の低空)
	15	月	月が2018年で最遠(406,464km)

江越 航(科学館学芸員)